

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

授業科目	単位	備考
<b>●「社会システム研究」領域</b>		
社会学研究特論Ⅰ-1	2	☆
社会学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会学研究特論Ⅱ-1	2	☆
社会学研究特論Ⅱ-2	2	☆
社会心理学研究特論Ⅰ-1	2	☆
社会心理学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会心理学研究特論Ⅱ-1	2	☆
社会心理学研究特論Ⅱ-2	2	☆
人格心理学研究特論Ⅰ-1	2	☆
人格心理学研究特論Ⅰ-2	2	☆
国際政治学研究特論Ⅰ-1	2	☆
国際政治学研究特論Ⅰ-2	2	☆
法学研究特論Ⅰ-1	2	☆
法学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会文化学研究特論1	2	☆
社会文化学研究特論2	2	☆
<b>●「比較文化研究」領域</b>		
ドイツ文学研究特論Ⅰ-1	2	☆
ドイツ文学研究特論Ⅰ-2	2	☆
フランス文化研究特論Ⅰ-1	2	☆
フランス文化研究特論Ⅰ-2	2	☆
比較文化研究特論Ⅰ-1	2	☆
比較文化研究特論Ⅰ-2	2	☆
文化人類学研究特論Ⅰ-1	2	☆
文化人類学研究特論Ⅰ-2	2	☆
中国思想文化研究特論Ⅰ-1	2	☆
中国思想文化研究特論Ⅰ-2	2	☆
国際開発学研究特論Ⅰ-1	2	☆
国際開発学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会文化学研究特論3	2	☆
社会文化学研究特論4	2	☆
<b>●共同演習</b>		
社会文化学共同演習Ⅰ	2	☆
<b>●論文作成演習</b>		
●社会文化学論文作成演習Ⅰ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅰ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅱ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅱ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅲ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅲ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅳ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅳ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅴ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅴ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅵ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅵ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅶ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅶ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅷ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅷ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅸ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅸ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅹ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅹ-2	2	☆
<b>●領域共通</b>		
多変量解析演習	2	☆
社会調査演習	2	☆
質的研究演習	2	☆

備考：☆印は再履修することができる科目を示す  
本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の社会文化学専攻博士前期課程において修得する。
- 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
  - 本学大学院の社会文化学専攻の授業科目、ならびに社会文化学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
  - 本学大学院の社会文化学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

●履修方法

- 「社会システム研究」領域および「比較文化研究」領域のいずれからでも4単位以上・共同演習から2単位以上を修得する。「共同演習」は1年次に履修することとし、標準修業年限内のすべての年次において再履修可能である。
- 社会文化学論文作成演習Ⅰ-1～Ⅹ-2は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

●修士論文の作成

修士論文の作成については、指導教員と副指導教員の指導を受ける。

●研究指導体制

- 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- 大学院学生は、指導教員が担当する「論文作成演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- 「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全専任教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。
- 例年11月に指導教員・副指導教員・大学院学生の三者面談を行い、構想および論点について多角的に検討し、修士論文作成に向けての大筋の調整と主な論点整理を行う。
- 2月に全専任教員・大学院学生参加で修士論文発表会を行い、1年次生に対しても論文作成の構えを養う。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として社会文化学論文作成演習のみ履修することができる。

授業科目一覧

●：リサーチワーク科目  
無印：コースワーク科目

授業科目	単位	備考
●「社会システム研究」領域		
社会学研究特論Ⅰ-1	2	☆
社会学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会学研究特論Ⅱ-1	2	☆
社会学研究特論Ⅱ-2	2	☆
社会心理学研究特論Ⅰ-1	2	☆
社会心理学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会心理学研究特論Ⅱ-1	2	☆
社会心理学研究特論Ⅱ-2	2	☆
人格心理学研究特論Ⅰ-1	2	☆
人格心理学研究特論Ⅰ-2	2	☆
国際政治学研究特論Ⅰ-1	2	☆
国際政治学研究特論Ⅰ-2	2	☆
法学研究特論Ⅰ-1	2	☆
法学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会文化学研究特論1	2	☆
社会文化学研究特論2	2	☆
●「比較文化研究」領域		
ドイツ文学研究特論Ⅰ-1	2	☆
ドイツ文学研究特論Ⅰ-2	2	☆
フランス文化研究特論Ⅰ-1	2	☆
フランス文化研究特論Ⅰ-2	2	☆
比較文化研究特論Ⅰ-1	2	☆
比較文化研究特論Ⅰ-2	2	☆
文化人類学研究特論Ⅰ-1	2	☆
文化人類学研究特論Ⅰ-2	2	☆
中国思想文化研究特論Ⅰ-1	2	☆
中国思想文化研究特論Ⅰ-2	2	☆
国際開発学研究特論Ⅰ-1	2	☆
国際開発学研究特論Ⅰ-2	2	☆
社会文化学研究特論3	2	☆
社会文化学研究特論4	2	☆
●共同演習		
社会文化学共同演習Ⅰ	0	☆
●論文作成演習		
●社会文化学論文作成演習Ⅰ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅰ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅱ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅱ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅲ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅲ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅳ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅳ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅴ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅴ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅵ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅵ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅶ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅶ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅷ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅷ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅸ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅸ-2	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅹ-1	2	☆
●社会文化学論文作成演習Ⅹ-2	2	☆
●領域共通		
多変量解析演習	2	☆
社会調査演習	2	☆
質的研究演習	2	☆

備考：☆印は再履修することができる科目を示す  
本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

- 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の社会文化学専攻博士前期課程において修得する。
- 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。
  - 本学大学院の社会文化学専攻の授業科目、ならびに社会文化学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目
  - 本学大学院の社会文化学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

●履修方法

- 「社会システム研究」領域および「比較文化研究」領域のいずれからも4単位以上を修得する。「共同演習」は1年次に履修することとし、標準修業年限内のすべての年次において再履修可能である。
- 社会文化学論文作成演習Ⅰ-1～Ⅹ-2は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

●修士論文の作成

修士論文の作成については、指導教員と副指導教員の指導を受ける。

●研究指導体制

- 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- 大学院学生は、指導教員が担当する「論文作成演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。
- 「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全専任教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。
- 例年11月に指導教員・副指導教員・大学院学生の三者面談を行い、構想および論点について多角的に検討し、修士論文作成に向けての大筋の調整と主な論点整理を行う。
- 2月に全専任教員・大学院学生参加で修士論文発表会を行い、1年次生に対しても論文作成の構えを養う。

●課程修了の所定単位を修得済みの者が標準修業年限を超えて在学する場合

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として社会文化学論文作成演習のみ履修することができる。